

Injury Alert (傷害速報) 類似事例

髪留め用輪ゴムによる歯肉への迷入 (No.96 ストロー様異物による乳歯への嵌入の類似事例 1)

事例	基本情報	年齢：3 歳 11 か月 性別：女児 体重：13.2kg 身長：91.9cm
	家族構成	父、母、弟
	発達・既往歴	ダウン症候群 言語発達：一語文を使用、歯科診療における指示理解は良好 運動発達：片足立ち可能、ひとりで衣類着脱やボタンかけが可能
臨床診断名		下顎歯肉裂傷、下顎左右乳犬歯亜脱臼
医療費		入院 0 円 外来 7,730 円
原因対象	対象名称	髪留め用輪ゴム (ポリウレタン製) ゴム幅：1.5mm 輪の形状 (未使用時)：長径 20mm×短径 7-9mm の楕円状
	入手経路 使用状況	本児の髪留め用に毎日使用していた。未使用分は本児の手が届かないところに保管していたが、一度使用したものに関しては特段管理していなかった。以前から、本児が自分で髪から外してそのまま遊んでいることがあった。
発生状況	発生場所	不明
	周囲の人 周囲の環境	家族が新型コロナウイルス感染で自宅療養となったため、未感染であった本児は、所見に気づかれる直前 7 日間ほど祖父母宅へ預けられていた。
	発生年月日	明確な発生時期は不明 2022 年 12 月 X 日 (水)に発覚
	発生時の 詳しい様子 受診までの経緯	X 日に祖父母宅から自宅へ戻った際、本児の下顎歯肉がめくれていることに母が気づいた。同日中に自宅近くの歯科 A を受診した。何らかの外傷性が疑われ、自然治癒を期待して 1 週間経過観察された。しかしながら、X+7 日時点で治癒傾向が認められなかった。小児病院歯科 B へ紹介され、X+9 日に受診した。

医療機関受診時以降の治療経過 転帰	〈歯科 B 初診時の口腔内所見〉 下顎左右乳犬歯間部の歯肉に、深さ約 3mm の歯肉裂傷を認めた（図 1）。創部からの活動性出血や排膿はなかったが、歯間乳頭部（歯と歯の間の歯肉）の腫脹と歯根露出があり（図 2）、下顎左右乳犬歯に軽度の動揺を認めた。 両親によると、祖父母宅へ預ける当日の朝、自宅で歯磨きをした際には本児の口腔内に異常はなかったという。また、祖父母宅に滞在中、本児が口の中を気にしたり経口摂取や歯磨きを嫌がったりする様子は特になかったようである。詳細な発生時期や状況は不明だが、日頃から本児が輪ゴムを口にくわえていることがあったという母の証言があり、輪ゴムによる歯肉迷入が疑われた。詳細に観察したところ、下顎の左乳犬歯から右乳犬歯まで計 6 本の歯牙を包囲するように輪ゴムがはまっており、それが徐々に直下の歯肉に迷入していったものと考えられた（図 3）。歯肉に局所麻酔を行い、輪ゴムを摘出した（図 4）。 〈摘出後の経過〉 X+23 日時点で歯肉は治癒傾向であり、乳犬歯の動揺もおさまっていた（図 5）。
キーワード	口腔内異物、輪ゴム



図 1 歯科 B 初診時の口腔内所見①

下顎左右乳犬歯間にかけて、歯肉に横走する裂傷を認める。

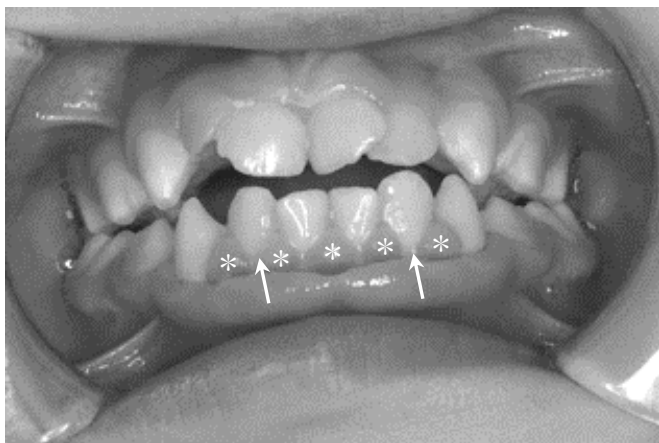


図2 歯科B初診時の口腔内所見②

歯肉裂傷の直上にあたる歯列に、歯間乳頭部の腫脹（*）と歯根露出（矢印）を認める。

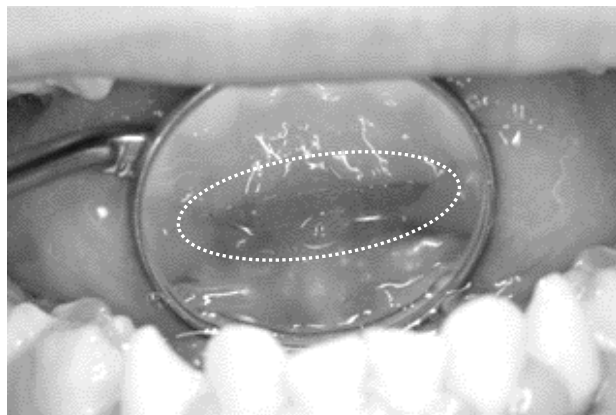


図3 摘出处置時の下顎歯肉所見

左：唇側所見 裂傷部を開いて観察すると、肉眼的には迷入した輪ゴムを確認・同定することができた（写真では不鮮明）

右：デンタルミラー越しに観察した舌側所見 歯肉内に迷入した輪ゴムがうっすら透けて見える（破線枠内）

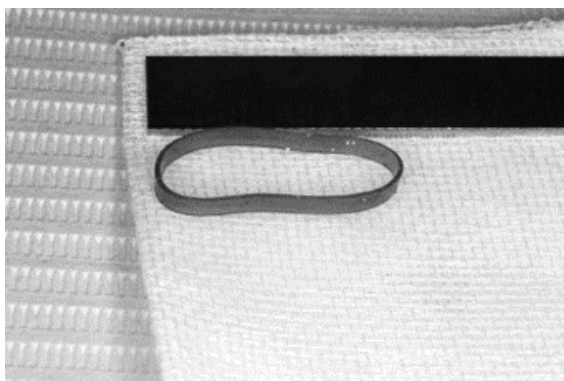


図4 実際に摘出された輪ゴム

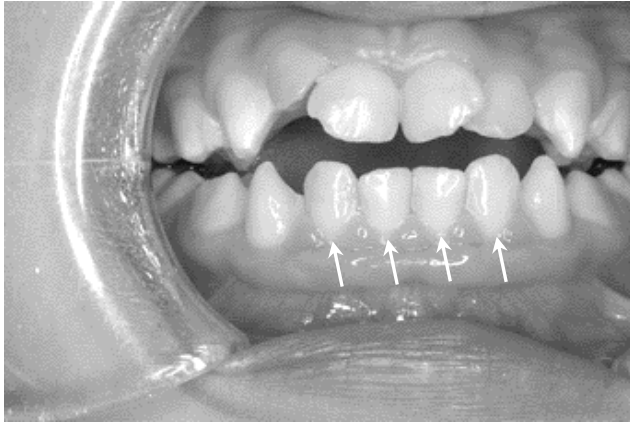


図5 X+23日時点の下顎歯肉所見

歯根露出（矢印）は残存するものの、歯肉の裂傷部は塞がり、治癒傾向が認められた。